

平成 31 年度 参加と協働市民フォーラム

第 4 回

狛江☆サミット

実施報告



令和 2 年 3 月

狛江市市民参加と市民協働に関する審議会
狛江市市民活動支援センターこまえくぼ 1234
狛江市

目的

団体同士の交流の時間を多く取ることで団体間の繋がりを深めるとともに、各団体が持つ悩み等の解決へのヒントや、活動へのアイデアや知識等の発見の機会とする。

フォーラムテーマ

「幸せなコミュニティのカタチ」

主催／企画運営／共催

主催：狛江市市民参加と市民協働に関する審議会
狛江市市民活動支援センターこまえくぼ 1234
狛江市

日時・場所

令和2年1月11日（土） 午後1時～3時45分
中央公民館地下ホール

出席者数

- ・参加者：48人
 - ・市民参加と市民協働に関する審議会委員：9人
 - ・市事務局：4人
 - ・市民活動支援センターこまえくぼ 1234：3人
- 計 64人

当日の流れ

- 13:00 開会あいさつ <狛江市企画財政部政策室長>
13:10 講演会「強くあたたかい組織・コミュニティの作り方」
講師：NPO 法人 CR ファクトリー 代表理事 呉 哲煥さん
14:15 休憩
14:20 団体・個人ごとに自己紹介・PR
14:50 自由交流
15:30 感想発表
15:40 閉会あいさつ <狛江市市民活動支援センター長>

講演会

テ ー マ	… 「強くあたたかい組織・コミュニティの作り方」
講 師	… 呉 哲煥（ご てつあき）さん（NPO 法人CRファクトリー代表理事）
内 容	… 1. 非営利組織の運営の難しさ 2. コミュニティマネジメントの基本原則 3. 強くあたたかい組織をつくるための3つの要素 4. 地域に必要なコミュニティとは

<講演会要旨>

「強くあたたかい組織」とは・・・

「強さ」・・・活動の成果が出ること。スピード感があって前に進む推進力があること。

「あたたかさ」・・・メンバーが楽しい・居心地が良い・会社や家庭以外で自分の居場所ができたなど感じる事。

どちらも兼ね備えていることが地域活動・市民活動にとって価値が高い。

[1. 非営利組織の運営の難しさ]

(1) 非営利組織でよくあるパターンは大きく分けて2つある。

①事業・理念ばかり追求する代表（情熱や強い想いのあるタイプ）

→スタッフが手段化してきてしまう→スタッフが疲弊・意欲の低下により離れていく→事業推進力の低下

代表は、なぜ自分はこんなに頑張っているのにスタッフは思うように動いてくれないのか、と孤独を感じてしまう。

②人に寄り添いすぎる代表（人柄が良くあたたかい人が多い）

→スタッフ間の関係性を重視（メンバーの良い関係性が続くように目配りをする）→仲良しサークル化→集まることが目的に（本来の目的が前に進まない）

●代表者への問題提起

①目的・事業成果のために人が手段になりすぎていないか？

②人に寄り添いすぎて活動の成果やスピードが鈍っていないか？

(2) どこの団体にも共通の悩み「温度差」

理念共感の差、コミットメントの差、主体性やモチベーションの差、などスタッフ間の「温度差」と「多様性」をどうするかが大きな課題となる。

●温度差により起こる現象

ミーティングに集まらない・ドタキャンする、お客さん・受け身なのでマネジメントが大変、タスクをやってこない等々。

→リーダー・幹部はいつの間にか孤独を感じはじめる。

●なぜそのような状況が起こるのか？

メンバーが主体的でないから・メンバーのコミット（意欲）が低いから・メンバー間の目線・温度がずれているから・メンバーの愛着がないから・メンバー間の関係性が希薄だから

●解決のヒント

非営利組織・ボランティア組織によくあるこのような構造を理解し、主体性や愛着を高めていくマネジメントが必要（気持ちを耕すマネジメント）。

[2. コミュニティマネジメントの基本原則]

(1) サービスではなくてコミュニティ

→リーダーが一生懸命頑張れば頑張るほど「サービス」になる。運営側もお客さんとして楽しみ、お客さん側も運営を手伝い、「主客」と「客体」が主客交代・主客融合するのがコミュニティ。

(2) 舞台と役割・出番をコーディネートする

→リーダーはあくまでコーディネーター（世話人、調整役）であり、脚本・監督主演などすべてやってはいけない。多くの人が活躍できる舞台（＝組織）をつくる。また、それぞれのメンバーに対してお客さんではなく、舞台を一緒につくるキャストとして役割・出番をつくる。

(3) 人はコストをかけた分だけ愛着がわく

→メンバーに時間を使ってもらい、苦労してもらい。リーダーはひとりで抱えず、共に時間を使い、共に苦労する。楽であれば良いわけではない。

(4) お金以外の報酬（非金銭的報酬）に着目する

→ボランティア人材は「お金以外の報酬」が重要。「成長」・「出逢い」・「居場所」・「仲間」・「やりがい」など、メンバーが関わる理由に着目し、「お金以外の報酬があふれる組織」を目指す。

(5) 自動的に運営される仕組みをつくる

→スタッフが熱く燃えられるのはイベント3回ぐらいまで。みんな忙しく時間が少ない中で、毎回時間をかけて熱心に運営するには限界がある。そこで、「年間計画」・「テンプレート」・「業務マニュアル」・「各種フォーマット」等を活用することで、組織が自動的に動いていく仕組みをつくる。

[3. 強くあたたかい組織をつくるための3つの要素]

2013年に立ち上げたコミュニティキャピタル研究会が300団体・8200名を超えるNPO団体構成員を対象に、自分が所属する団体への「コミュニティ感覚」とそれに影響を与

える要因についてアンケート調査を行ったところ、6年間何度実施してもすべて同じ3つの因子となった。

(1) 理念共感

・同じ集団に属する人間として、仲間と共通の目的や目標を共有し、共にそれを目指そうと思えること。

(2) 自己有用感

・団体の活動、関わりを通して「自分は役に立っている」「必要とされている」と感じられること。欠かせない存在であり、自分は重要であると思える感覚。

(3) 居心地の良さ

・「人間関係が良好である」「メンバーと一緒に活動することが楽しい」「仲間といると落ち着く」と感じられること。

[4. 地域に必要なコミュニティとは]

(1) 社会参加づくり

・イベントや勉強会等の団体活動により、これまで市民活動や地域活動に参加してこなかった方に対して社会参加を提供できるという機能（活動）はこれからの時代非常に価値がある。

(2) 居場所づくり

・団体活動や場が誰かの居場所になるということはとても価値のあること。

(3) 担い手づくり

・団体の担い手は団体の継続や活気に重要であり、いずれは地域の担い手にもなっていくことも考えられる。

<質疑応答>

【Q】「コミュニティ」と「サークル」という言葉をどう使い分けているか。

【A】「コミュニティ」という言葉には2つの意味がある。1つ目は「地理的コミュニティ」と言い「狛江市」など面でのイメージ、もう1つは「コミュニティ」と「サークル」どちらの意味も含んでいる「関係的コミュニティ」という言葉があり、それらを使い分けている。

各団体のパネル展示

ご希望された団体について、活動紹介のパネル展示を行った。開会前と休憩時間等に参加者にご覧いただいた。

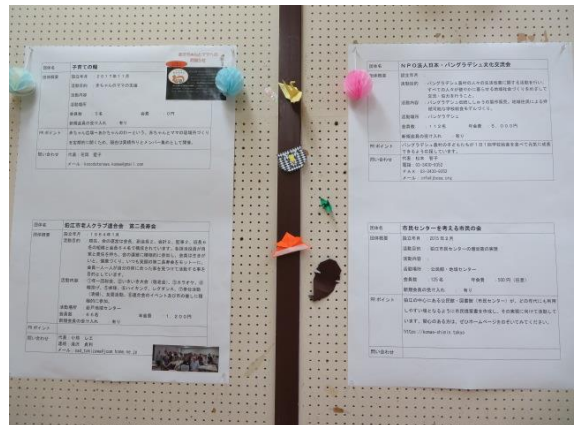
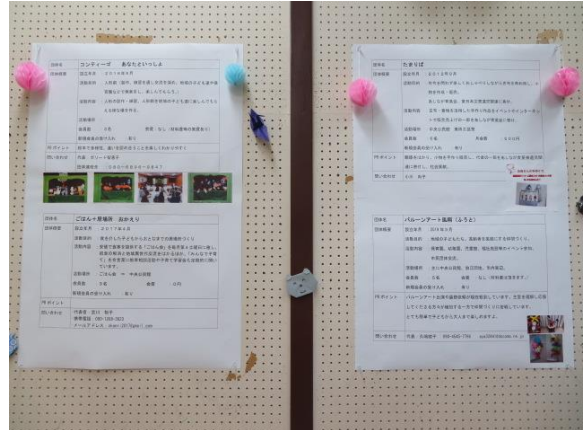
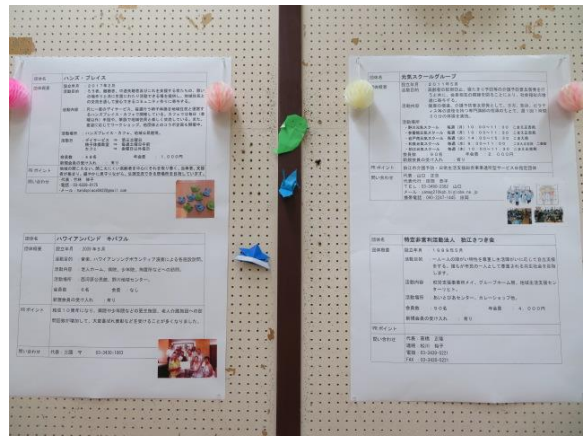
<パネル展示団体 24団体>

◇狛江ともしび音楽隊

◇コンティーゴ あなたといっしょ



- ◇金春流 能楽師 中村昌弘後援会
- ◇NPO 法人フードバンク狛江
- ◇狛江音訊グループ
- ◇みんなの居場所
- ◇ごはん+居場所 おかえり
- ◇市民センターを考える市民の会
- ◇日本・バンングラディッシュ文化交流会
- ◇狛江市将棋愛好会
- ◇元気スクールグループ
- ◇バルーンアート風翔（ふうと）
- ◇こまえアレルギーの会
- ◇ヘルマンさんの会
- ◇ハワイアンバンド キパフル
- ◇ほっとサロン
- ◇たまりば
- ◇狛江市第二長寿会
- ◇NPO 法人 エルブ
- ◇さいざんすくらぶ
- ◇日本語教室
- ◇狛江さつき会
- ◇ハンズプレイス
- ◇子育ての輪



<狛江市市民活動支援センターこまえくぼ 1234 での展示 (1/12~2/12) >
 サミット翌日の1月12日から1ヶ月間フリースペースにて展示を行った。



自由交流

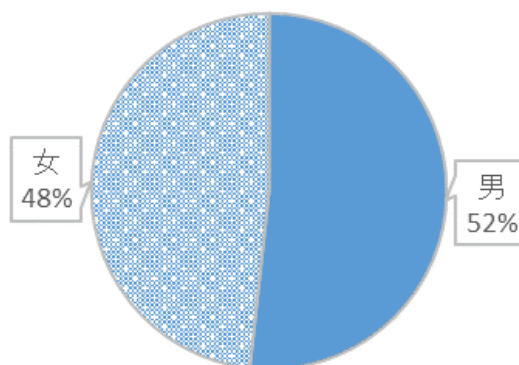
最初は司会者の合図で交流、その後はフリーでの交流の時間としたが、各々が自発的に他の参加者に声掛けをしており大変有意義な時間になったと感じられた。



アンケート集計結果

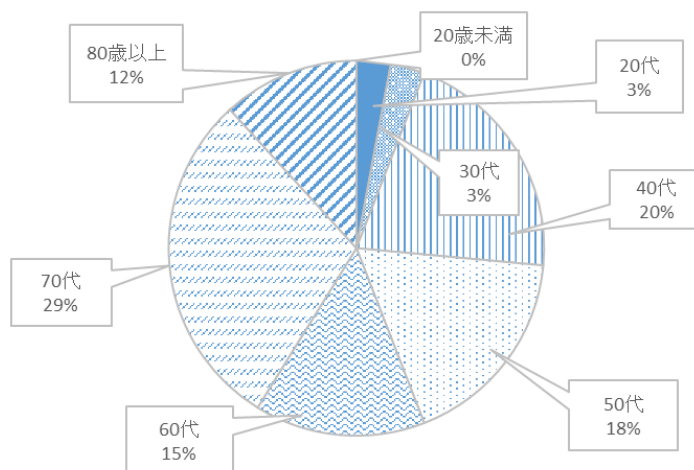
<性別>

- ◇男性：15人
- ◇女性：14人
- (無回答：5人)



<年齢>

- ◇20歳未満：0人
- ◇20代：1人
- ◇30代：1人
- ◇40代：7人
- ◇50代：6人
- ◇60代：5人
- ◇70代：10人
- ◇80歳以上：4人
- (無回答：0人)

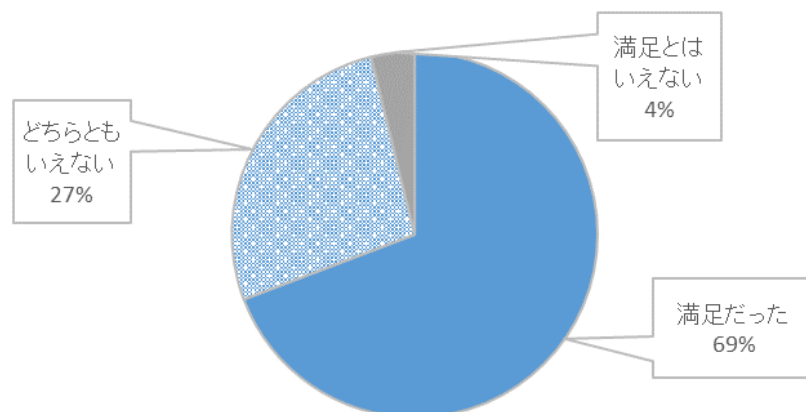


<職業>

- ◇学生：0人 ◇会社員：7人 ◇自営業：4人 ◇公務員：0人
◇無職：13人 ◇その他：9人
(無回答：1人)

<本日のフォーラムに参加して どうでしたか>

- ◇満足だった：18人
◇どちらともいえない：7人
◇満足とはいえない：1人
(無回答：8人)



<この事業を何で知りました>〔複数回答可〕

- ◇広報こまえ：6人 ◇狛江市ホームページ：1人 ◇知り合いに誘われた：4人
◇ポスター：1人 ◇チラシ：5人 (正吉苑・公民館・こまえくぼ)
◇こまえくぼからの案内：15人 ◇その他：5人 (Facebook、情報紙えくぼ、政策室より 他)

<興味のある市民活動はありますか>〔複数回答可〕

- ◇防災・災害支援：13人 ◇障がい者支援：9人 ◇介護 (予防・サービス)：11人
◇子育て：10人 ◇青少年：5人 ◇環境・自然：11人
◇スポーツ：5人 ◇学習・学び：6人 ◇文化・芸術・音楽：9人
◇地域活動：19人
◇その他：2人 (平和活動・生活困窮者支援・生きづらさを抱える方の支援)

<行政と市民活動団体が一緒に取組むと良い協働事業はありますか>〔複数回答可〕

- ◇防災・災害支援：16人 ◇障がい者支援：10人 ◇介護 (予防・サービス)：9人
◇子育て：10人 ◇青少年：7人 ◇環境・自然：12人
◇スポーツ：2人 ◇学習・学び：7人 ◇文化・芸術・音楽：8人
◇地域活動：14人 ◇その他：3人 (平和活動・食料支援)

★具体的な取組み内容をご記入ください

- ・自分を開放してジャンルを問わず活動につなげていきたいです。
- ・市民が相談しやすい雰囲気のある協働事業はどうでしょうか。
- ・フードバンク活動を地域の仕組みに
- ・精神科共同作業
- ・自治会活動・イベント

- ・通所型サービスBの育成
- ・あまり家から出られない子育ての方へ防災に関心を持っていただける機会を作りたい。

<主な講演会の感想>

- ・組織にいる1人1人が主役じゃないとダメというところが強く印象に残った。
- ・これから進めていく活動の参考になりました。
- ・内容は良かったが、時間とのバランスをもう少し考えたほうが良かったのでは。
- ・担い手づくりの難しさを感じる。若い人にどうつなげるか課題。
- ・呉さんの話をお聞きしたくて参加しました。短い時間の中で内容の濃いものでとても参考になりました。今後に生かしていきたいと思います。
- ・NPO ボランティア活動の件、共感できた。
- ・コミュニティ運営の仕方がよくわかった。
- ・高齢のためスピーチのスピードをもう少し遅くしてほしい。参加年齢を考えれば全体として高齢者が多いと思う。
- ・異業種のコミュニティとたくさん知り合えて良かったです。
- ・「コミュニティ」と「サークル」は次元が全く異なると思います。「サークル」であるならば「現場」をおさえた言い方が聞きたかった。
- ・後半のみ参加ですが、グループをどう維持するかでは、出すぎない・受身にならない、これは基本と思いました。
- ・指針としてまとまっていたと思います。
- ・自分が代表として活動している中で、反省すべき点と改善点に気付きました。メンバーが主体的に動いてくれるマネジメントを考えてみたいと思います。
- ・会社の運営にも当てはまる事案で勉強になりました。
- ・とても勉強になりました。耳の痛い話が続き、考え方を見直す機会となりました。
- ・自分たちの活動のポイントを整理して示され参考になりました。
- ・コミュニティマネジメントというテーマは興味深く、楽しく聞くことができた。もう少し詳しく聞いてみたいと思う。
- ・コミュニティに関して、主客の部分の考え方やサークルの中にコミュニティを作るということは違和感があった。
- ・参加した団体はもうできあがっているので、今後の展開の仕方のお話などが聞けるとよい。講演ではなく、団体のお話などの方がよい。
- ・気になることたくさんありました。強くあたたかい組織・コミュニティをつくる方法。理念を共有する、理念についてメンバーと語り合う。難しいことではないと思うのに素直に話し合うことがなかなかできません。

<主なご意見・ご感想>

- ・参加したことにより多くの方々とつながりを持つことができました。今後、自分が活動していく上で力になりました。ありがとうございました。
- ・4回すべてに参加したが、今回は他団体といろいろ話ができて良かった。

- ・何かしてみたい市内の活動に関心がある若い男性の参加は良かった。
- ・皆さん熱意を持って様々な社会課題・地域課題に取り組まれていることに感心した。若い方が少なく中高年が多くて、どう若い方につなぐかを考える必要性を感じる。
- ・他の方の感想にもありましたが、年齢層の片寄りが気になりました。ターゲットを絞ること、広報の仕方に再考が必要かと思います。
- ・サークルの活動は全員楽しんでいられると思われそうです。
- ・本日の内容から活動に関心ごと、サークル的なものについては発展に有益である。一方、町会・防災会など準公的なものについては不十分である。
- ・非営利活動の運営は金銭に代わる報酬が大切だと心に残りました。
- ・多くの方から名刺をいただきました。大変有益でした。
- ・市民活動の多いことに感心しました。良い交流ができました。
- ・いろいろな方と知り合えて良かった。
- ・様々な地域の方、団体の方たちと交流することができて良かった。年齢層が高いことが良いのか悪いのか…。活動が順調な団体の参加はなくても良いのでは…と思います。
- ・例年に比べ活発さが増していた。
- ・有意義な集まりでした。ありがとうございました。
- ・(性別の記入欄) もう廃止したらどうですか。
- ・地域や世代を超えた交流が図りたいのに、現代の社会にはそれを阻む何かがあるような気がします。私にとって有意義な時間でした。

(アンケート回答者：34人)

狛江市市民参加と市民協働に関する審議会委員名簿・役割

氏名	役割
奥村 隆一	会長
石田 琢智	副会長、会場内案内
大塚 隆人	
宍戸 泉	受付係
西 智子	受付係
平川 亮二	会場案内
島本 和彦	会場案内
内海 貴美	会場内案内
深谷 慎子	会場内案内
松崎 学	会の説明
篠宮 悠子	司会
水江 悟	
長谷川 好道	
野口 潔人	

フォーラムを終えて（委員の感想から）

- ・参加人数も多く良かったと思う。ただ、昨年は粕江市の地域連携職員の参加もあり、参加者の年齢層が下がった感じがしたが、今年は地域連携職員の参加がなく、参加者の年齢層が高く感じた。呉先生をお呼びして30代前後ぐらいの方にもう少し参加していただけるかもしれないという期待もあったが、その世代は少なかったので来年に向けて告知方法等を考えていければと思う。当日の講演会等の時間も初めは押していたが司会等のタイムスケジュール感が良く結果的には定時に終了したので良かったと思う。
- ・昨年に比べて年齢層が高く感じた。ただ意欲的な方が多く、参加者それぞれが自主的に交流されており評判も大変良かった。こまなくほと共催でできたことや司会の進行も良くプラスになっていたため今年のような形もとても良いと感じた。
- ・昨年は手探りの中、皆で考えて築いていこうという雰囲気があったが、今年に関してはすでに実績のある方が多かった。来年は昨年と今年の良い所をうまく組み合わせる実績のある方達と若い方達が交流できるような場を作り、お互いが認め合えるような雰囲気作りができればと思う。
- ・フォーラムの最初に講演会があったことで会全体の火付け役のような形となり良かったと思う。また、昨年はグループでの話し合いの中で審議会委員が書記やまとめ役で入っていたため話の内容も良く分かったが、今年は自由交流であったため盛り上がっているなどという実感はあったが、具体的にどのようなことを話しているのかが分からなかった。話の内容の記録を残しておくことも大事だと思った。
- ・若い世代の集客や今後のために記録を残しておくという課題もあったが、総じて成功だったと思う。